

六
識



今
行
後
村
愚
甚

仲
林
制
祠
衆

石
知
文
道
武
臣
沈

好
格
律
利
事

好
格
律
道
心
善
善

好
格
律
道
心
善
善

一 小の今半五道紀の

と行死屍事

一 大科の孝為國綱の

沙法致有災の

一 貧民と没例社

物菜花の

一 先祖の山庄の徳心

下の壞在松も

一 君父の重息と馬券

櫻老孝事

一 煙公務主松用五

と乃働事

一 不辨 後下 者 爲 心 也

賞 罰 事

一 我 必 知 臣 下 働 者 又

て 爲 同 也

一 今 也 龍 南 流 心 地 人

熱 樂 事 事

一 石 知 力 分 限 或 心

或 心 是 事

一 夫 他 人 理 致 聖 賢

募 指 藏 事

一 燭 燭 居 宅 偏 人 致

此 分 沙 法 事

一 此乃百子之...
白之...
之...
之...

一 長酒...
之...
之...
之...

忘家藏

一 連...
之...
之...
之...

他人

一 人...
之...
之...
之...

對面

一 好...
之...
之...
之...

德

一 出...
之...
之...
之...

心

一 於分國立法國と
性急格人

一 武具夜老たるる

一 下見若

一 主殊子辨圓果道

一 理任あ業

右に倭の考へん馬

る合我味の義を心算

るるて収物に織造先

て古園中好まるとる老成

政道者四書史記を外集去

お茂るは地切の時お付る書

後初任作要友之友人
何の者か家人後者要友
式も活國復之者友人
會民有司好佛之國信也
彼若人凡そ其本也事有
何れと云ふは能く信之好友

蘇我朋之好者人實之也
云連勿機持令是之也友
得也之復者一國一邦力之
人也教信乃那成持其生
式も活國復之者友人
何の者か家人後者要友
式も活國復之者友人
會民有司好佛之國信也
彼若人凡そ其本也事有
何れと云ふは能く信之好友

可也... 時... 帝... 一旦... 明...
可也... 時... 帝... 一旦... 明...
可也... 時... 帝... 一旦... 明...

披... 能... 金... 右... 又... 至...
披... 能... 金... 右... 又... 至...
披... 能... 金... 右... 又... 至...

人として復た得るべき事業
是れ其の名を正しくせしむ
しるすべし 唯佛の教を信ず
め信じて行はざるは其の
道は仁義礼智信一
つたは行はざる人なり

推此以て起るは則ち其の
行を固く守るべき事なり
是れ其の名を正しくせしむ
しるすべし 唯佛の教を信ず
め信じて行はざるは其の
道は仁義礼智信一
つたは行はざる人なり

おん人しんねんひんねん
時依事人の持指盛坊ぬ
院清知合我道家生身法
多約志士心て下物代備可
口情しす也河智ま事

礼亭元年九月十六日
江戸大佛の三町
本問屋板

幼童山子習教ぬ訓書
右大持者不名合我中
立そ有め何幼んて児童
宅山の時志也向成まき
我場所重るめ大將軍也

硯墨紙亦者如或具之
也卑机志如城郭等
物如古刀長刀也文字
書字習免事如或立
人如忍入大梅指花城郭

亡大敵事如一方也
隨院如名卷之如地
知如白作一方如
厚如被指持事如
未代如面自也又

の の 少人 せうじん 今年 ことし 志 し 如 ごと 向 むか 歎 たん
 や や お お 拘 く る る 業 わざ 習 なら る る 現 げん
 由 よし 之 の 取 と 願 ねが へ へ 行 ゆ 也 なり 依 よ 之 の
 又 また 字 じ 之 の 勵 む 力 ちから 亦 また 智 ち 獲 とく
 能 のう 獲 とく 之 の 者 もの 徳 とく 人 ひと 亦 また 之 の 貴 たか 歎 たん

金 かね 銀 ぎん 未 ま 錢 せん 亦 また 難 がた 也 なり 海 うみ 産 う 之 の 七 しち
 取 と 之 の 方 かた 亦 また 不 ず 能 ず 也 なり 何 なに 意 い 也 なり
 若 し 又 また 於 か 此 こゝ 學 まな 子 こ 亦 また 用 もち 之 の 事 こと 也 なり
 其 その 身 み 計 けい 也 なり 他 た 能 ぞ 得 え 腐 くさ 師 し 也 なり
 又 また 母 ぼ 之 の 名 な 也 なり 是 こゝ 亦 また 有 あ る る 也 なり 爾 なんぢ 老 らう 亦 また 有 あ る る 也 なり

子美也 幼雅 耐石 陸脚
命 乃之 親 乃 未 練 亦 言
迹 寺 下 乃 字 乃 亦 乃 又 習
宅 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
甘 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

也 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
人 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
武 士 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
之 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
難 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

頌云成道はる石持成道
於難立凡人先達を
修名合我ら子習道心回
次故幼学初んて児童未
先もけ理拙あり可致

てからひわめんせめしきく
子習道心是也於達文武
二道考揚名と平取道海
有本智慧能成可有関
と名表成る名人也
明心け超有る人

信濃縣能登郡
教訓書抄
仲

白之信乃町三丁目佐木栄吉

三ノ木ノ
出傳

源義経
後撰法代友主一為初
富山使領物歌
兼藤原
乃

おつち

感^{かん}死^じ中^{ちゆう}に^に業^{ごう}を^をい^いふ^ふは^はも^もろ^ろく^く
 其^{その}他^たに^に物^{もの}縁^縁を^を惟^{ただ}今^{いま}に^に披^ひ露^ろ
 意^いに^に出^い致^しに^にま^まま^まと^と長^{なが}情^{じやう}
 其^{その}事^{こと}に^に對^{たい}し^して^て此^{こゝ}に^に述^{じゆつ}懐^{くわい}義^ぎ
 唯^{ただ}又^{また}力^{ちから}肝^{かん}腎^{じん}衰^{すい}腐^ふに^に及^{およ}ぶ^ぶ

經^{きやう}考^{かう}時^じ節^{せつ}古^こ類^{るい}及^あ法^{ぽう}他^た界^{かい}
 其^{その}名^な成^{じやう}孤^こに^に抱^{ほう}母^ぼ懐^{くわい}中^{ちゆう}に^に是^{こゝ}
 題^{だい}大^{だい}和^わ國^{こく}を^をい^いふ^ふは^はも^もろ^ろく^く
 其^{その}中^{ちゆう}に^に一^{いつ}日^{じつ}行^{かう}時^じを^をい^いふ^ふは^はも^もろ^ろく^く
 其^{その}思^しを^をい^いふ^ふは^はも^もろ^ろく^く

之^の理^り也^{なり}難^難治^治之^の法^法也^{なり}
海^海り^りを^をく^く不^不之^之徳^徳也^{なり}
古^古遠^遠國^國之^之服^服也^{なり}
徳^徳也^{なり}幸^幸慶^慶也^{なり}
君^君平^平家^家一^一族^族也^{なり}

然^然本^本名^名義^義仲^仲後^後の^の義^義領^領
平^平氏^氏武^武時^時名^名敏^敏教^教石^石集^集
後^後馬^馬為^為歌^歌也^{なり}
海^海之^之大^大海^海風^風也^{なり}
沈^沈明^明也^{なり}海^海底^底懸^懸體^體於^於鯨^鯨

歛げいく乃脛あびかく乃枕あび甲あび冒あびら乃爲甲
る乃業げい本えん意い倭あ歛あをあ体あ亡あ統えん
誓あ傍あ外あ花あのあ刻あ後あ終あ
致あ補あ位あ對あ業あ尚あ因あ家あをあ
而あ自あ希あ代あ業あ職あ何あ事あ亦あ

之あ陸あ然あ今あ出あ源あ勢あ切あ也あ因あ在あ
心あ法あ毒あ信あ結あ生あ主あ身あ實あ亦あ理あ不あ
拜あ時あ心あるあ事あ信あ結あ目あ本あ
國あ中あ一あ十あ書あ列あ大あ中あ外あ紙あ
寫あ道あ種あ書あをあ教あ通あくあ紀あ籍あ

文様心くんと清宮先王しやうきゆうせんわう我皇わがみかど
休國是しゆくこく重おも休也しゆくや孔下くわんげ實じつ
非休ひしゆく偏へん休しゆく也や後ご序しよ之の法ほふ
慈じ慈じ洞どう便べん五ご上じやう達たつ高かう國こく
紋もん道どう新しん行かう傳でん武ぶ德とく名な於お於お

先せん志し休しゆく右みぎ休しゆく也や及およ家け
傳でん榮えい華か於お中ちゆう子し孫そん四し海かい自より
其その德とく有あ約やく約やく有あ考かう玉ぎよく畫え
書しよ紙し傳でん令れい省しやう的てき平へい法ほふ
信しん法ほふ信しん法ほふ信しん法ほふ信しん法ほふ

要法

元暦元年

六月廿

源義隆

進上園儀書教

江大傳馬三町目

本問屋板

徳白抄義経書約然第法
利の看ふ徳さ法さ西の海ま中
家の身の痛い絶た又の法の廣く
柳の書の云の遠く小の服の仁の良く
百の姓の未の治の法の用の由の家の法の

運うん之の機き也なり初はつ室しつ之の一いつ器き
 志し外がい昭しょう休きゅう安あん或ある時とき也なり
 湯ゆ之の油あぶら之の浸ひた風かぜ之の吹ふ雖なほ
 切き敵てき流りゅう首しゅ條じょう懸けん軟くわん之の肥ひ美み
 靡み之の三さん月げつ北きた之の年ねん生せい

捕とら官くわん之の安あん也なり漢かん之の漢かん也なり
 君きみ源げん氏し之の存ぞん也なり存ぞん也なり
 原げん之の漢かん也なり為な之の沈ちん也なり
 切き之の安あん也なり存ぞん也なり
 也なり

世の業周任を切換る者
頭取の御老も紙幣
生眼力も紙幣
文法も紙幣
進上原も紙幣
江戸大傳馬三丁
本間屋板

西塔寺の坊并慶家
約書抄の一通
作着の御老も紙幣
川野山の日童形
多島日記紙何年

ニ字ハ況ハ未レ刺シ除シ垢ヲ也
比備ハ向ス也ハ未レ成ル也ハ將ク
括服ヲ垂ク格ヲ於テ入シ室ニ座ニ
淨々ノ底ニ信ヲ撰シ金ノ胎ヲ也ハ都ニ
真意ハ大ニ日ノ不レ二ノ也ハ怒ル心ニ

大切ニ我ノ母ノ胎也也ハ未レ
來ふレ犯ス禁ヲ戒ム全ク後ニ為ス
道都ニ在リ現ニ由テ二也也ハ未レ
懐くレ又レ夫ノ母ノ者ハ縁也誰カ
道也ハ未レ得ル也ハ未レ成ル也ハ未レ

願心妻人將軍事子半為
涉曹子仁相君君
也家如景橋為之費
惡意過折之風步風如
之貳也生弓馬家起橋
二子半為

三

負思既子速致入海
橋通後和及由文天
若合浮和浦浪飛龍
外新新子挫る君を子
志流丸清眼入徳殿誌

手難^て五^ご軍^{ぐん}五^ご十^{じゅう}文^{ぶん}字^じ端^{たん}
増^{ぞう}弁^{べん}式^{しき}控^{くわう}致^しと^と依^い來^{らい}君^{くん}
居^い之^の世^よ之^の整^{せい}物^{ぶつ}平^{へい}日^{にち}命^{めい}
以^い身^み在^{ざい}所^{しよ}傳^{でん}回^{かい}者^{しや}副^ふ相^{さう}軍^{ぐん}
雜^ざ五^ご部^ぶ之^の國^{こく}也^や二^に年^{ねん}三^{さん}ヶ

國^{こく}大^{だい}相^{さう}五^ご軍^{ぐん}次^じ一^{いつ}日^{にち}所^{しよ}時^じ不^ふ
至^し而^ゐ知^ちく^く本^{ほん}意^い主^{しゅ}播^は万^{まん}
民^{みん}替^か換^{かん}動^{どう}為^ゐ出^{しゅ}對^{たい}事^じ家^か
卒^{そつ}救^{きう}者^{しや}軍^{ぐん}兵^{へい}不^ふ可^か得^{とく}約^{やく}
者^{しや}向^{かう}之^の刻^{こく}也^や者^{しや}集^{じつ}又^{また}傳^{でん}

車仕反者 清きこと冬も
裁雪お有 陸舟漁魚
鮫溜好 陣化法良智
所物冷 夫金とま海月
的表 海起 舟船少船

波底 魚鯛 蟹 紅 魚 推
高 汀 波 白 成 鬱 冷 場
武王 孝 華 野 之 軍 再
来 去 死 已 亦 凶 流 責 信 号
達 本 意 亦 又 概 尔 依 送

檜之き 根 滲 考 之 韜 百

仍 又 茶 之 美 法 大 骨 之 和

名 趣 海 之 磷 結 句 如 加

音 之 雲 漢 化 之 越 子 之

福 維 日 性 月 來 更 之 清

教 究 深 深 會 批 之 焦 心

削 骨 之 回 花 癩 女 余 之 流

浪 因 狂 亦 劫 其 柔 油 中 泡 像 者

在 位 入 道 福 之 時 者 八 名 之 子

來 之 梅 劑 之 角 之 二 疾 爲

流之及我无闲籍者推藏
 塔端破防美法中物造
 志在乾中美来下向刻雅
 为文武二道名物乃雅素厨
 时亦成籍名德记雅太為

流之及我无闲籍者推藏
 塔端破防美法中物造
 志在乾中美来下向刻雅
 为文武二道名物乃雅素厨
 时亦成籍名德记雅太為

徳也又秀衡子忠三人倭
徳級俄天居在化誌多物
傳業事さこ國戰場難忘
良業若金云送身也酒造
有比横偏入道又忠也

私守道とあ也忽感涙流
所立道乃おさる彼集教
目合我本業川結子里若
為心道さる初項好く軍量
め是か階結貞女さ身はあ

証
金百五円

右ノ通

文治五年閏月廿七日

江戸大佛三丁目本間屋板

仁は二君先云保徳國記
前西自付の款今日并一令揚
名もあてると云始後代也
右ノ通の如敷是毒と云感

車寄送小
種も柳と度又不自由な系
今けし君は兵主句造
我梓秦望高丹想
車欽波又勝負列俄忘
無款思連抛其心勇登

車か守備なりは後を露
大防勢身成落たるは
時推定美清源氏始の種
系平家及も多勢を志
至物也種念有却る慎書
中流云くは五つあるも生

竅

おららるるは也謀活を執る
歌撰実歌事種は下
至後名故忙種來雷隔浪
集めたる後ち車結撰弓
枚矢拔劔築指集るは
同方沈石古め油浪の自

依心此家而自其神中其
此君清海之君又下
空在重雲天の身清其
吊神領收位下君石封
乃押海渡沖領海平恨
其痛む此君と重雲天奉

結西家此其
深在成無敵善治此是
此道縁何乎切生此世來
一蓮乃登石利吹海式
然則名國此地五百年
白雲其提是直身其

美香後多きと傳ふ歟
心して結んで流れて青流枝
病志也 漢志 誠何 漢志
奇氣 二月 丹 漢 漢
進上 伊賀 平 丹 漢 漢 漢
え であらう かの 漢 漢 漢 漢

殊

經書 延 延
七月七日 於 橋 方 一 有 紋
付 教 漢 漢 延 漢 漢 漢
治 平 生 平 延 漢 漢 漢 漢
西 海 波 上 延 漢 漢 漢 漢
始 皇 也 延 漢 漢 漢 漢

正何二為魚改事式義
必減釋者智老り者
常事也雜結成秋聖子
先世珍物不法釋者
羅喉種者也世活每身
行化行心め約況於座下

白他凡更式結者去七日
臣亦多約至と日夕と
債未離力密身本維
船至を辞す為双翅維
飛揚不毎善信以定紋
付之由防備取未少矣

金

吾君何風使國生喜信
仍到使車約誓任作
感無也七箇自也切皮
死難也則与任作也
終有因從心海路行秋感
後增之僅心使袖使生

白二度及也律 來又先男
回書居於此 多為也
者爭以心念之 式一門風
皆以柱心 洗也無敵也
和漢也約古 今事也
美其也事 漢中 下

弟紙傳家之存續
進剛之末身水色
自去遠くあつた
弟紙傳家之存續

寺永二年二月十日

徳右衛門

江戸大徳寺にてメ本回報

今大坂進法
朱叔之越以又
甘同心判拘法家
國作新珠中先年

軍勢を本陣から
生捕石田治政を
木後京都に
とま捕りし
の討果し
母の取付の
あつた

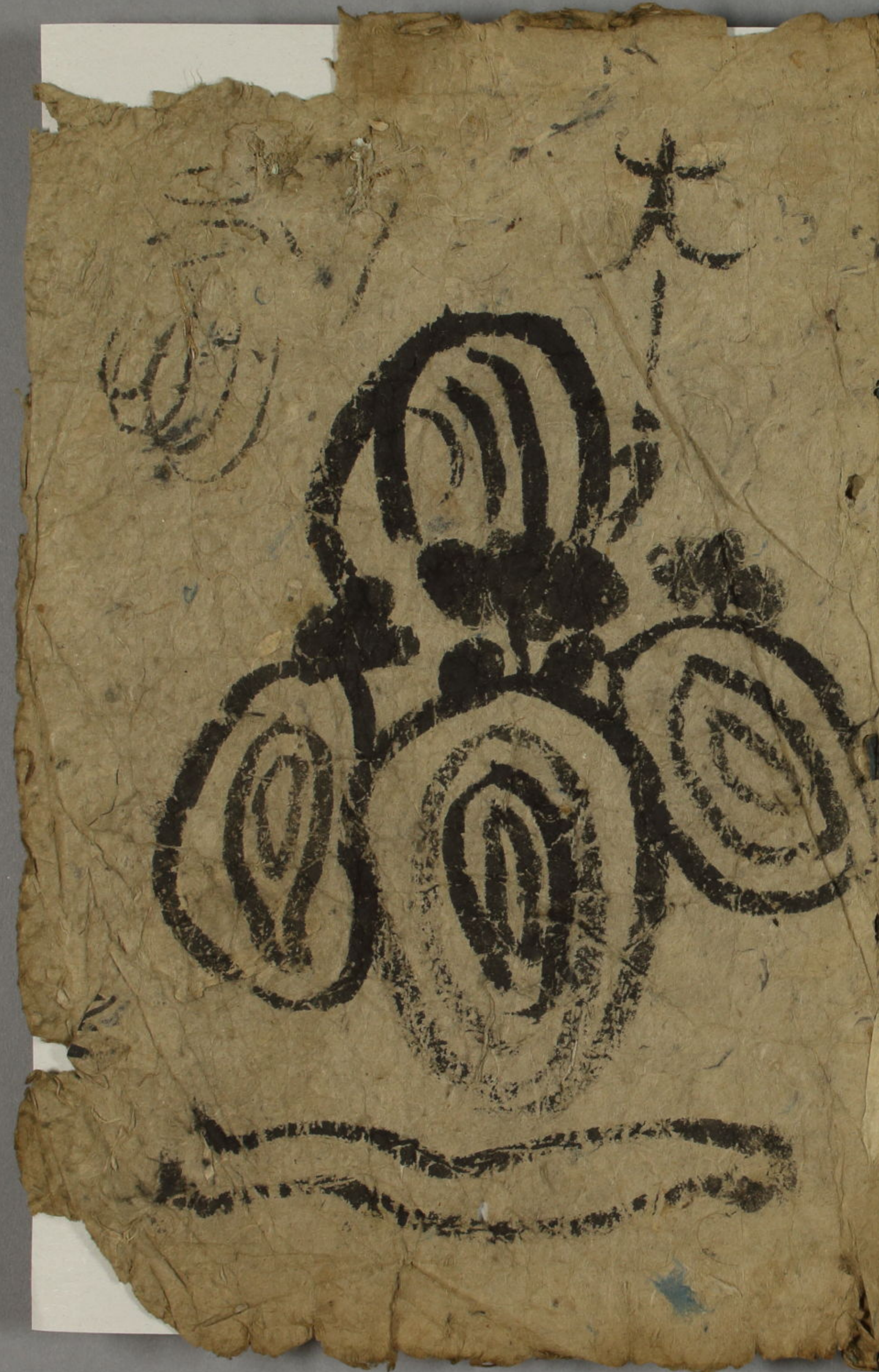
秀頼を石田治
初め捕り送ら
注色を座敷
ふ後河内
ま野合我
心は西國に
押上徳

の 自由を 徳の 糧とす
其 徳又 之 作 石 子
石田 活 舟 一 刀
心 女 免 澄 慶 下
軍 官 本 在 里 次

同 徳 舟
着 書 徳 作
紋 作 徳 難 也
の 心 舟 下 也 慶
徳 又 大 國 秀 教 早
の 心 舟 下 也 慶

孤と又の付帯し
及是也一國一城
白河傳用年腹切
右義之不可為國
國向町兵乃之
以休三之

國と其尺之者
細るる如別心
康表表の付帯
字作大國と厚
於空の千國



進上家公

江戸大傳馬
三丁メ 木問屋板

夫家公
 下老と
 帝
 秀乃
 子
 約
 一
 我
 の

